

良日持ち性のダリア新品種 「エターニティトーチ」、「エターニティロマンス」、 「エターニティルージュ」

ダリア(*Dahlia variabilis*)はその豪華な花容と様々な花色を有することから、人気の切り花品目として近年切り花流通量が増加しています。一方でダリアには日持ちが短いという問題があり、消費のさらなる拡大に向け日持ち性の改良が強く望まれていました。そこで、農研機構では、2014年から6年間ダリアの研究に取り組み、日持ち性が向上した3品種を育成しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「エターニティトーチ」は安定した良日持ち性を示し、花径が大きく豪華な花容で観賞性が高く、露芯がほとんど発生しません。「黒蝶」に似たセミカクタス咲きの花型（花弁の先端に向かって花弁が外側に反っている花型）です。
2. 「エターニティロマンス」は優れた日持ち性を示し、桃色品種としては花径が大きく、ボリュームのある切り花を採花できます。また、早生で生産性に優れます。
3. 「エターニティルージュ」は3品種中で最も優れた日持ち性を示し、早生で生産性に優れます。くすみのないきれいな赤色の、花型が整ったフォーマルデコラ咲き（幅の広い舟形の花弁が幾重にも重なるダリアの代表的な花型）で、切り花にボリュームがあります。
4. 3品種の切り花の日持ち日数は、水に活けて6.9～12.0日、糖質と抗菌剤入りの溶液に活けて9.8～13.4日と、主要品種「かまくら」の1.4～2.1倍となりました(2018年につくばで栽培された切り花を23°C、相対湿度、70%、12時間日長の条件で調査した結果)。



「エターニティトーチ」



「エターニティロマンス」



「エターニティルージュ」

☆ 活用面での留意点

1. 種苗生産のための原種苗提供の予約を、2021年3月末日まで受け付けています。
2. 詳しいことは、農研機構野菜花き研究部門 研究推進室 渉外チーム (e-mail:yoyakudaria@ml.affrc.go.jp、FAX:029-838-6673) までお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)